

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 5月 6日

所属・職名	政策情報学部准教授	氏名	権 永詞
研究課題	現代アートの創作活動における社会性の所在—鑑賞者の視点からの考察		
研究キーワード	現代アート、地域活性化、モビリティ	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本年度は、昨年度終了した共同研究プロジェクト（千葉商科大学経済研究所「地域活性化に対するアートの役割」）における活動を継続し、千葉県市川市真間あんどん祭りにおけるアーティスト・ワークショップの導入及びその効果についての観察を行った。2019年に第5回を迎えたあんどん祭りは、地元商店街と市役所、寺院、大学が協同して実施する地域活性化を目的としたイベントであり、子供たちの手作りあんどんでお寺の参道・境内をライトアップするという、アートとは直接関係のないイベントである。こうしたイベントにアーティスト・ワークショップを導入することは、ある意味では「地域アート」批判における自律性を欠いたアートの「使い方」と言えるが、一方で、「エンターテインメント」として期待されるアートが、イベントにおける継続的な企画となることで、イベントの運営体制にも変化が生じつつある。アートという異質な目的を持つ試みが導入されることで、地域活性化のイベントを単なる賑わいや景観の創出以上のものに変化させていく可能性を見出すことができたといえる。</p> <p>また、これらの調査も踏まえて『国府台経済研究』に、アートを集客メディアとして導入することの可能性や問題点についての論考を発表した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権永詞「集客メディアとしてのアート：「真間あんどん祭り」への導入例における可能性と課題」『国府台経済研究』第30巻2号、pp.3-24、2020、査読無 <p>3. 主な経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に当該テーマの検討のための書籍購入費に使用した。また、一部、関連の勉強会への旅費として支出した。 <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p>			

(本文は1ページ以内にまとめること)